

KIT
キャンパス
レポート
文・出島二郎
マーケティングプランナー



笹川康雄（ささかわ やすお）
金沢工業大学大学院工学研究科
環境土木工学専攻
博士前期課程一年
石川県立金沢二水高等学校出身

東北石巻市へ、能登珠洲市へ 新しい防災研究の道を走る。

専門領域は違うにしても、親の母校へ進学する学生に会うと、明るい気持ちになる。家庭の対話の風景がみえてくる。進路を相談できる最良の助言者がいるのだから。昭和四十年開学の金沢工大にも卒業生の二世たちが入学する時代である。笹川さんもその一人。父は石川憲一現学長の研究室で機械工学を学んだ。

「理工系を選んだからには何か基盤になる成果を残したいと思って大学院へ。父はドクターを勧めますが、ほくは社会人ドクターでもいいかなど。土木工学を選択したのは、公共事業や都市計画の方にと考えていたので。でも学部二年生のときに木村先生の講義を聞いて、防災の道を見つけました。それも人間の意識改革などの分野

に特化したいと。」

指導教授の木村定雄先生はトンネル工学、建設マネジメントを専門とされ、地域防災環境科学研究所の研究員も兼務されている。笹川さんは、ものづくりではない新しい防災研究に取り組んでいる。テーマは「地域防災計画に基づく脆弱性評価手法の構築」である。

「防災といってもリスクコミュニケーション・セッション分野が主題で、防災計画と防災教育を合体させたいわけです。工大生七十五名が志願して、被災地支援で石巻市にも行きました。ほくはまとめ役で。また、珠洲市と連携して、防災面から活性化の実践研究も展開しています。高校時代から過疎化の進む能登の発展のために自分の人生を使いたい、という想いがあった。」

木村先生が能登半島地震の災害分析など、将来のまちづくりに向けて活躍されていることも幸運だった。東日本大震災によって防災

が最優先課題として認識され、笹川さんの研究を押し上げる状況が生まれたのだ。

「先生の魅力は論理的であることです。意味の構造を考えて話すこと、相手がどういう知識を持って対面しているのかを考えることなど。社会に出たときの実践論として。本学にはヤル気のある学生に対してしっかり支援する環境があり、授業でも教科書を超えた指導をしてもらえる。頑張っていれば必ずからチャンスがつかってきますし、成果もついてくる大学です。」

笹川さんのプロフィールには学長褒賞・表彰の履歴があった。学業だけでなく学友会活動が評価されている。自己管理能力と統率力に優れているのだ。それはキャンパスに溢れている挑戦する機会を自分のものとした軌跡であった。

金沢工業大学

石川県野々市市開が丘七七一
電話番号 〇七六二四八二〇〇